

第2学年 生活科学習指導案

1 単元名 ぐんぐん そだて わたしの 野さい

2 指導観

- 本学級の児童は、1年生のときに自分達で選んだ花の種を植木鉢で育てる活動をした。そこで「お花を育てたい。」「花を咲かせたい。」という思いや、友達と共に自分が育てている花との関わりを深め、「お世話を頑張ったから花が咲いた。」「花を育てることが楽しい。」など、自分自身への気付きを高めていった。2年生となり、本単元に入る前にアンケートをとったところ、24人中22人が野菜を育てた経験があった。しかし、野菜が好きかという質問には、好き13人、どちらでもない10人、苦手1人という結果だった。野菜に対する思いや親しみはあまり強くないことが伺える。

このような児童の実態から、児童それぞれが自分で調べて選んだ野菜を育て、自分の野菜の世話と友達の野菜の世話の仕方を比較する活動を行う。その学習過程の中で、地域の人々との交流を通して、1年生の時よりも野菜を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて野菜や地域の人への親しみをもち、見方・考え方を働かせて、思いや願いを実現させていきたいと考えた。

- 本単元は、学習指導要領内容(7)「動植物の飼育・栽培」を受けて設定した。本単元は、「自分の鉢植えて一人一苗の野菜や学年園で他の野菜を継続的に栽培する活動を通して、これまでの経験を基に、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物に親しみをもち、大切にしようとする事ができること」をねらいとしている。

- 指導に当たっては、次の手立てをとる。

【着眼1】 地域とのかかわりを重視した学習活動

地域の人への親しみや憧れをもち、積極的に関わろうとする気持ちを高めることができるように、さつまいもを植える活動や、野菜の世話をしていく活動等の中で、地域の人をゲストティーチャーとして招き、野菜の栽培についてわからないことを、児童たちと交流する場を設ける。

【着眼2】 児童の思いや願いに沿った学習過程の充実

- ① 単元の導入では、児童が「自分で野菜を育てたい。」「育てた野菜を食べたい。」という思いや願いをもつことができるように、野菜実物を提示し、本や図巻等を使って、育てたい野菜を調べて選ぶ活動を設定する。さらに「もっと大きくしたい。」「おいしい野菜にしたい。」という思いや願いをもつことができるように、今まで野菜をお世話してきた様子や起こった出来事の写真を学びの足跡として掲示し、野菜との出会いの場や世話をする過程に着目した指導計画や評価計画を立てる。
- ② 児童1人1人が本単元の目標を達成できるように、野菜の苗やその成長と関わる児童の様子を具体的にとらえ、1人1人の思いや願いを実現していく過程を見取る。振り返りの際は、選んだカードで児童の思考がすぐに見取れるように、3種類の振り返りカード(♡、!、?)を活用する。児童との対話やカード等で見取ったことから児童のつまずきなどを想定し、「支援計画表」を作成するようにする。つまずいている児童の実態やそれらの解決につながりそうな友達のよい考えに着目し、焦点化した支援表を作成する。

【着眼3】 身近な生活に関わる見方・考え方を生かす

- ① 継続して野菜の世話をする中で、困ったことや疑問に思ったことが出た際の解決方法を、試行錯誤しながら自分で考えるだけでなく、これまでの経験を生かして、図鑑等で調べたり地域の人に聞いたりすることができるようにする。
- ② 小グループでの野菜の成長や世話の仕方についての交流活動を設定する。活動の中で自分の野菜への関わりを随時見直すことができるように、同じ野菜を育てているグループや違う野菜を育てているグループなど、意図的に小グループ編成をする。小グループでの活動の際には、自分の思いを表現しながら友達と比べて、共通点や相違点を見つけたり、参考となるアイデアをもらったりできるようにワークシートやホワイトボード、ICTを活用する。

3 単元の目標

知識及び技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物の変化や成長の様子や、育てている野菜が生命をもっていることに気付く。 ○ 野菜を育てることを通して、自分や友達が上手に世話ができていくことに気付く。
思考力、判断力、表現力等の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜の育て方について自分なりに考えたり、人に聞いたり、本で調べたりして、よりよい育て方を工夫することができる。 ○ 野菜を育てることや成長について気付いたことなどについて、自分の好きな方法で表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜の育て方を調べたり、人に聞いたりしながら、大切に育てようとしている。 ○ 野菜の変化や成長の様子に関心を持ち、継続的に世話をしようとする。









4 指導計画・評価計画（全9時間）

主な学習活動	○主な指導上の留意点	【観点】評価規準(評価方法)
<p>1 野菜を育てよう。③</p> <p>(1) 野菜を育てる計画を立て、栽培する野菜を決める。①</p> <p>(2) 苗を植える。①</p> <p>(3) さつまいもを植える。①</p>	<p>○ 野菜の実物を提示したり、育てたい野菜について本で調べたりすることから、野菜作りに関心を持たせる。</p> <p>○ 自分の苗以外のものや友達の苗に自然と目が向くように、野菜の苗を多種にする。</p> <p>○ 土や畝作りをしたり、植える場所を考えたりすることができるよう、第1学年での栽培活動を想起させる。</p> <p>○ 地域の人との交流活動の中で、野菜の栽培についてわからないことを、質問できるようにする。</p>	<p>【主】自分の植木鉢で育てることができる野菜を、本で調べる等して選んでいる。(行動観察、発言分析)</p> <p>【思】育てたい野菜に合った植え方や育て方が違うことに気付いている。</p> <p>【主】地域の人への親しみや憧れをもち、積極的に関わろうとする気持ちを高めている。(行動観察、カード分析)</p>
<p>2 野菜のお世話を続けよう。③</p> <p>(1) 野菜を育てる。① (継続活動)</p> <p>(2) 野菜の相談会をする。② 【本時2/2】</p>	<p>○ 野菜の成長に対する思いや願いをカードに書き、自分の思いを大切にしながら育てることができるようにする。</p> <p>○ 継続的に自分の野菜と関わることができるよう、世話をし気付いたことを「やさいのけんこうかんさつ」に毎日書く時間を設ける。</p> <p>○ 自分や友達の活動や野菜の様子をわかりやすく伝えることができるように、タブレットを使い、記録した写真やカードを提示するようにする。</p> <p>○ 試行錯誤しながら、世話をしたり、観察したりできるように、「調査コーナー」や「道具コーナー」「作業コーナー」を設ける。</p> <p>○ 野菜の世話をしたり、友達と伝え合ったりする際、うまくいかず困っている児童がいたら、解決のヒントを得られるように、支援計画表を基に、他の児童と繋いだり、各コーナーへ連れていったりする。</p>	<p>【思】自分の野菜の苗と関わる活動、友達の野菜と比べ、伝え合う活動を通して、よりよいお世話の仕方について考え、これからの栽培活動の見通しをもっている。(発言分析、カード分析)</p> <p>【思】自分の野菜の様子を友達に伝え、植物が生命をもっていることや成長していることを自分の好きな方法で表現している。(発言分析、カード分析)</p>
<p>3 野菜の収穫をしよう。①</p>	<p>○ 未熟の野菜と熟した野菜とを見分けながら収穫できるように、収穫した児童と繋いだり、資料を見るように促したりする。</p>	<p>【知】育ててきた野菜の成長を喜びながら、大切に収穫している。(行動観察、発言分析)</p>
<p>4 野菜のことをまとめよう。②</p> <p>(1) 野菜の成長や自分の世話の仕方を振り、まとめる。①</p>	<p>○ 自分の野菜への思いや成長を自分の好きな方法で表現できるように、今まで書いたワークシートや写真等を見直したり、野菜の成長や自分の世話の仕方について振り返る時間を設けたりする。</p> <p>○ 野菜づくりを振り返る中で野菜に生命があることや育てることが上手になった自分に気付くことができるように、気持ちを綴った手紙を作成する時間を設ける。</p>	<p>【思】世話を続けてきた野菜と自分との関わりを振り返り、自分なりの方法で表現している。(発言分析、カード分析)</p>

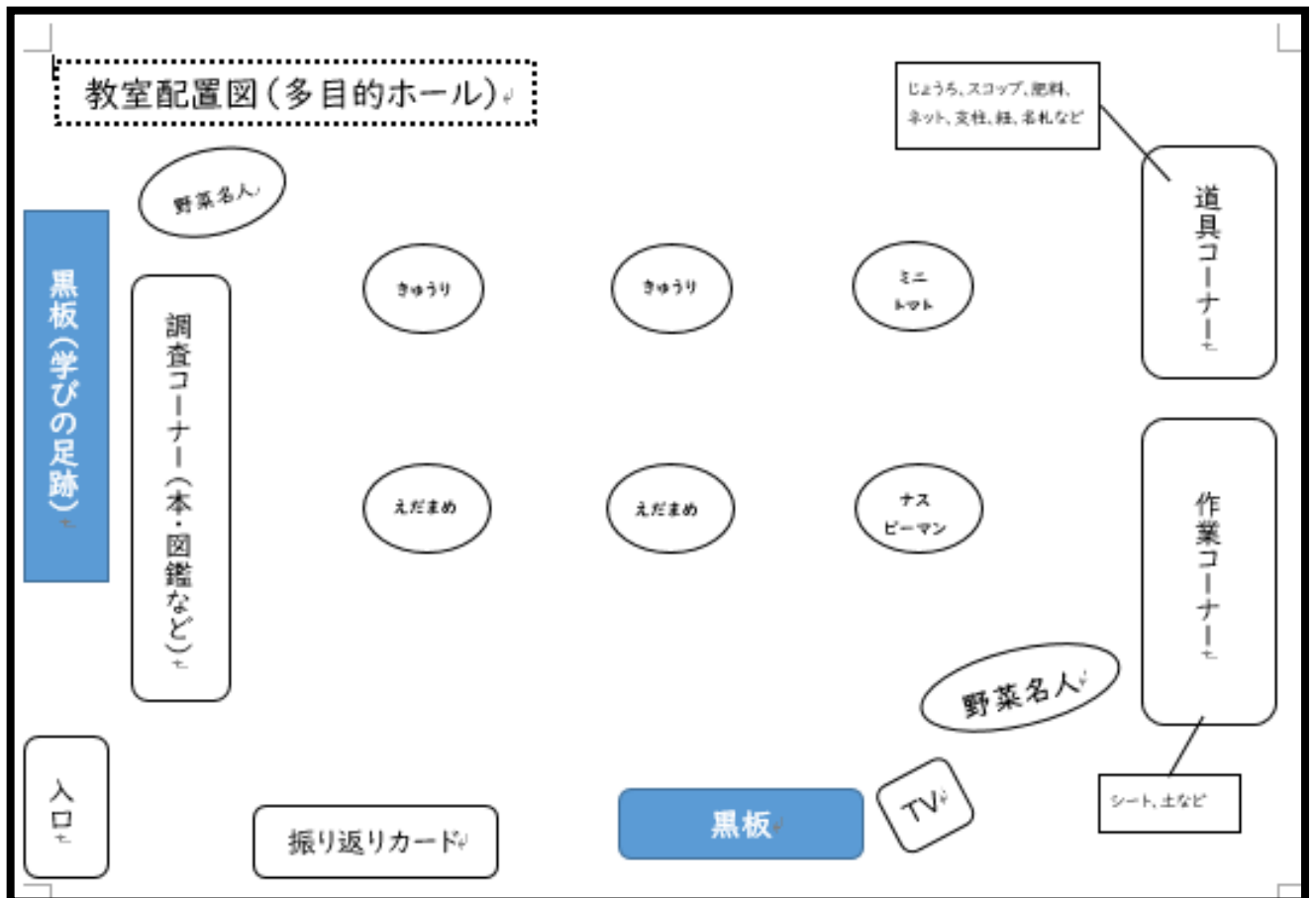
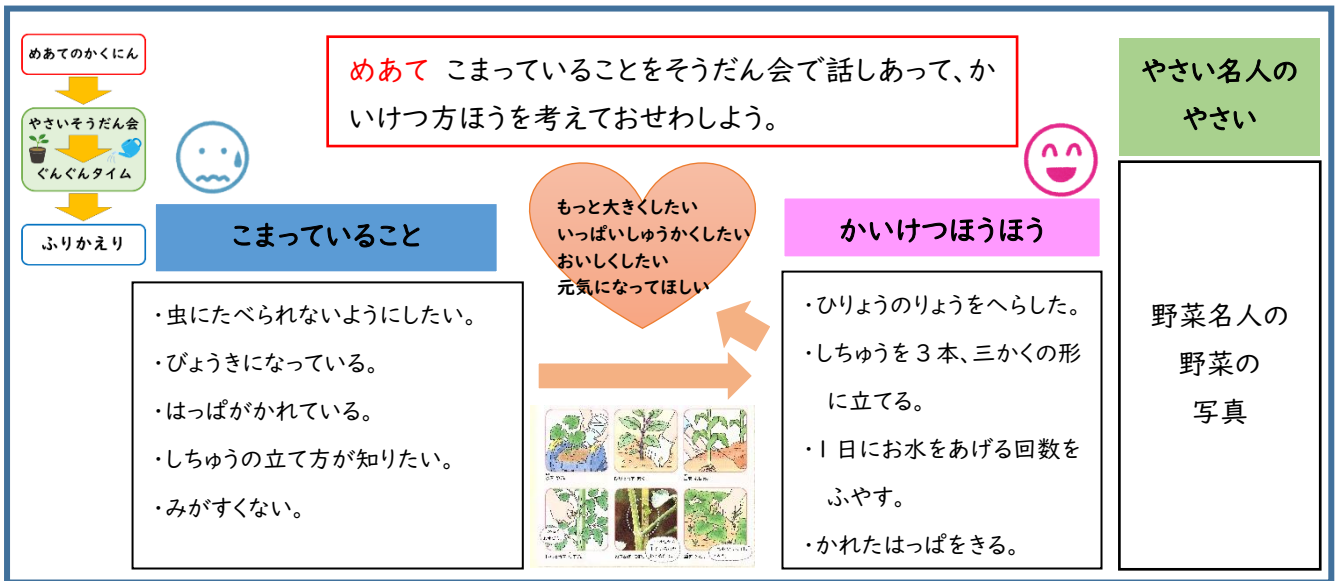
(1) 主眼 「やさいそうだん会」で育てている野菜の特徴やよりよいお世話の仕方を伝え合ったり、「ぐんぐんタイム」で自分の野菜の苗に手を加えたりする活動を通して、自分が育てている野菜に合ったお世話の仕方について考え、これからの栽培活動の見通しをもつことができるようにする。

(2) 準備 タブレット、観察カード、ホワイトボード、付箋、3種類の振り返りカード

(3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法）	
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <p>友達のきゅうりの実は、私の実よりも大きいな。どんなお世話をしたら大きくなるんだろう。</p> 	<p>○ 前時を振り返り、野菜の成長で困っていることを発表し、本時のめあてへとつなぐ。</p> <p>○ 児童たちが野菜の成長の目標をもつことができるように、地域の人を「野菜名人」として育てている野菜の写真等を紹介する。</p>	
<p>(めあて) こまっていることをそうだん会で話しあって、かいけつ方ほうを考えておせわしよう。</p>		
<p>2. 困っていることを相談し合い、お世話の仕方について考えたり、実践して活動したりする。</p> <p>(1) 「そうだんかい」で、自分の野菜のことをグループの友達と伝え合ったり、比べたりする。</p> <p>肥料をあげたけれど、実が大きくならないのはなぜだろう。</p>  <p>ぼくのミニトマトは、肥料をあげたけど、ぐんぐんせいちょうしているよ。</p>  <p>肥料をあげるだけではいけないのかもしれないね。</p>  <p>野菜名人に聞いてみようかな。</p>  <p>(2) 「ぐんぐんタイム」の活動をする。</p> <p>予想される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をあげる。 ・ネットをかける。 ・支柱をたてる。 ・肥料をあげる。など <p>3. ふりかえりカードを書き、わかったことや、これからのお世話でしたいことを考える。</p> <p>4. 本時の学習を全体で振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	<p>○ 困っていることを視覚化できるように、ホワイトボードに、自分の野菜の自慢・お悩みポイントを表現する活動を設定する。</p> <p>○ 困っていることが解決できるように、グループを編成し、少人数での比べ合い・伝え合い活動を設定する。</p> <p>○ グループの中で解決できない場合は、調査コーナーで調べたり、地域の人に質問したりするように促す。</p> <p>○ 自分や友達の活動や野菜の様子をわかりやすく伝えることができるように、タブレットやワークシートを使い、自分で撮影した写真や記録したカードを提示しながら伝え合うように促す。</p> <p>○ 児童が野菜と関わり合いながら自由に活動することができるように、「調査コーナー」「道具コーナー」「作業コーナー」を設定する。</p> <p>○ 活動できず、困っている場合は、支援表計画表を基に、教師と一緒に活動したり、進んで活動している児童と一緒に活動したりするようにする。</p> <p>○ 気づきを学級全体で共有することができるように、自分の活動や友達の野菜と比べてどうだったかを発表し、どうしてそう思ったか理由も伝える。</p> <p>○ 活動が終わった後、児童が自分の思いを整理し、表現できるように、3種類の振り返りカードを用意し、書く時間を設ける。</p> <p>※用意する振り返りカードは、♡・!・?カード。</p> <p>○ 次時の学習についての見通しをもつことができるように、次時の学習でやってみたいことを伝え合うようにする。</p> <p>【思・判・表】自分の野菜の苗と関わる活動、友達の野菜と比べ、伝え合う活動を通して、よりよいお世話の仕方について考え、これからの栽培活動の見通しをもっている。(振り返りカード、行動観察)</p>	
<p>今までは、肥料の量まで気にしていなかったけれど、これからは肥料の量を少なめにしようかな。</p> 	<p>自分の悩みを野菜名人に聞いたら、アドバイスをもらったよ。この方法でお世話をやってみようかな。</p> 	<p>ぼくの野菜は、葉っぱが大きいことが自慢だったけど、次は実を大きくしたいな。</p> 

6 板書計画



ご指導よろしくお願ひいたします。